

景山議員が聴く 小谷一心太鼓の活動と 今後の展望について

表紙写真／話をお聞きした皆さん

「小谷一心太鼓」は、和太鼓の演奏をはじめとした活動を通し、「子どもたちに継承できるものを残したい」という思いから、高屋町小谷で活動をされている団体です。活動は小谷地域に留まらず、海外との交流も予定されているとのこともあったことから、国際化が進む本市の現状も踏まえ、メンバー11人にインタビューしました。

プロフィール

小谷一心太鼓のみなさん



代表 伊達 義明さん



稲田 さゆりさん



児童・生徒メンバー

※左上から右に、齋藤成沙さん、加藤愛理さん、松浦星空さん、左下から右に、加藤聡太くん、齋藤光那さん、日高花海さん



小谷一心太鼓 保護者メンバー

※左から、齋藤真弓さん、日高尚代さん、加藤智子さん

心を一つに 子どもたちに伝え、 残したい。

Q チーム名の由来は。

伊達 メンバーが心を一つにして、「前に向かっていけるように」、「元氣が出るように」と、「小谷一心太鼓」という名前にしました。チーム名と同じ名前のオリジナル曲もあり、小谷地域の発展をイメージしています。

Q 普段どのようなスケジュールで練習をされていますか。

稲田 毎週土曜日の夕方6時から8時半まで練習をしています。月に1回、先生に指導していただいております。基礎打ちと呼ばれる太鼓の基礎練習を行ったあと、曲を練習していきます。

Q チームの発足や運営で、どういったことが大変でしたか。

伊達 発足はメンバー集めやシステムづくりなど、全てがわからない状態で、手探りで進めていきました。良き太鼓指導者や地域からの太鼓寄付など、みなさんのおかげで体裁を保ててい

ます。運営では、子どもが続けなくなるような魅力づくりにはひと苦労です。

日高(尚) 日常の運営では、次の世代に伝えていくことが目標でもあるので、新しいメンバーを募集する必要があります。いろんなところで演奏して、「一心太鼓っていいな」「やってみたいな」と思ってもらえるように頑張っています。

Q 大変なこと、やってよかったと思うことなどを教えてください。

日高(花) はじめはつらいと



インド古典舞踊交流会 in 小谷

- ① 発表の風景
- ② 練習等を行う小谷地域センター
- ③ インドの子どもたちとの交流風景 (1)
- ④ インドの子どもたちとの交流風景 (2)

思うこともあったけど、もともと音楽が好きだったこともあって、太鼓の演奏がどんどん楽しくなっていくきました。地域とのつながりも感じられるようになったので、もっとつながりを深めていきたいと思っています。

加藤 (聡) 発表で舞台上になると緊張するけど、練習で太鼓を叩くのは気持ちがいいです。

松浦 知り合いが発表を見に来ると少し恥ずかしいけど、自分らしく演奏して、音がそろって曲がきれいに終わったときは、達成感があります。次に向けて頑張ろうという気持ちになります。

斎藤 (成) 学校ではテニス部に入っていますが、太鼓との両立を辛いと思ったことはありません。

Q インドに行く計画があると伺っています。このことについて、教えていただけますか。

伊達 今後の状況にもよりますが、8月にベンガールという都市を訪問する予定です。太鼓の演奏のほか、現地の学校の授業に参加させてもらったり、ホームステ

イも計画しています。子どもたちが異文化を体感し、和の文化を再認識してくれたらと思います。

斎藤 (光) 地域の外国人の方に英会話を教えてもらっているけど、日本から出るのは初めてなので、少し緊張しています。

加藤 (愛) インドに行ったら、日本の文化を伝えながら、向こうの文化などの日本では学べないことを学びたいです。

Q 本市もこれから国際化が進んでいくと思いますが、どんなイメージを持っていますか。

加藤 (智) 小谷にも外国人の方がいらっしやり、交流があります。グローバル社会に向けて、子どもたちにとっては、すぐいいことだと思っています。

Q 行政に要望はありますか。

伊達 子どもたちのモチベーションを上げられるようなものを、一緒に考えてもらいたいです。彼らには授業やクラブなど他にやりたいこともある。それ以上に魅力がないと、伝えたいことがあっても何も伝わっていきませんから。